令和８年 10 月
茨城野菜研究会

茨城産地へ生産拡大を希望する品目

茨城野菜研究会において、本県に生産拡大を希望する品目について会員各社から寄せられた意見を以下のとおりとりまとめました。これらの品目の生産拡大をご検討いただける場合は、茨城県農産物販売推進東京本部にご連絡ください。

1 特に生産拡大を希望する品目

品目 出荷時期	主な意見
きゅうり ９～３月	春作や抑制栽培期を中心に需要に対して供給量が不足している。 近在産地として茨城県産の安定した品質が評価されている。
抑制トマト ９～11 月	猛暑や生産者の高齢化による生産量の減少に加え、秋季の端境期を中心に数量不足と高値傾向が続いている。
ほうれんそう ９～５月、周年	年間を通じて需要があり、特に夏場は全国的に出荷量が少なく供給不足となりやすい。 また、産地の減少により需要が高まっており、生産拡大が期待されている。

2 1の次に希望する品目

品目 出荷時期	主な意見
豆類 （スナップエンドウ、さやいんげん） ６～10 月	九州や東北、北海道など主要産地で生産量や作付面積が減少しており、需要に対して供給が不足している。 また、年間を通じた需要があり、安定供給に向けた生産拡大が期待されている。
アスパラガス １～５月	春芽を中心に需要が高く、特に４～５月は九州産の減少により品薄となり高単価が期待できる。 また、近在産地への需要が強い一方で生産量が少なく、安定供給に向けた生産拡大が求められる。
ねぎ 11～12 月	需要期である年末にかけて供給量が不足しており、特に 11 月から年末にかけて高値で推移する傾向にある。
大葉 ７～９月	７～８月を中心とした需要期に供給量が不足している。
せり 11～３月	他産地の作付が減少しており、競合産地が少ない。関東圏では近在産地への需要が高い一方で供給量が不足している。

3　参考要望品目

品目 出荷時期	主な意見
ちんげんさい 7～9月	高温期を中心に夏場の供給が不安定で、給食需要への対応を含めた安定供給が求められている。
かぶ 1～5月	他県産や県内産地の減少により供給量が不足しており、特に春かぶの需要が高い。
春にんじん 3～6月	引き合いは強いものの栽培の難易度が高く、生産拡大が進みにくい状況にある。
ばれいしょ 7～8月	この時期は全国的に産地数や出荷量が少なく、供給不足となりやすい。
かぼちゃ 7～8月	この時期は全国的に産地数や出荷量が少なく、供給不足となりやすい。
オクラ 7～9月	量販店を中心に安定した需要があり、夏場の販売商材として期待されている。 また、比較的栽培しやすく、需要に応じた生産拡大が見込まれる。
ミニトマト 9月～11 月	10～11 月を中心に西南暖地産の出荷が少ない端境期となり供給不足が発生しやすく、需要が高い。
大根 4～5月	主要産地である千葉県産をはじめ他産地の作付面積や生産量が減少している。
ビーツ 周年	健康志向の高まりを背景に、血流改善や疲労回復、美容効果などの機能性が注目されており、需要の拡大が期待されている。

茨城県農産物販売推進東京本部
TEL:03-5492-5411